

令和4年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立都南小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・低学年の授業では、身近な生活の中からいろいろな材料を集めて発想を広げてつくるなど主体的に取り組み、つくる楽しさを味わったりすることができた。また絵の具やクレパス、カラーペンなど様々な材料や用具を使い、表し方を工夫して表現することが身に付きつつある。
- ・中、高学年はテーマに対して制作に意欲を持ち、集中して取り組むことができた。

(2) 課題

- ・中学年・高学年は、すでに学んだことをもとに材料や用具の特徴を生かしてより創意工夫しようとすることに課題がある。
- ・用具を扱う基本的な力は不十分である。繰り返し指導を続けていく必要がある。また、用具を大切に扱うことや最後まできちんと片付けることへの意識を強くもたせることが課題である。

2 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な用具は安全に使うことができる。 ・材料の特徴を生かした工夫は課題で、様々な材料の経験をさらに積み上げていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの思いをもって表そうとしている児童が多い。 ・当初の思いから、さらにイメージを広げていくことが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの活動にも意欲的に参加している児童が多い。 ・当初の思いは強くもてるが、最後まで意欲が持続しない児童もいる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の表したいことに合わせて、絵の具の筆づかいを変えることができる。 ・今までの材料や技能の経験を踏まえた表現の工夫は難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身のイメージや表したいことを大切に取り組んでいる児童が多い。 ・なかなか思い付かず、考え込んでしまう様子が複数名みられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく使う用具や材料に対して、意欲的に取り組んでいる。 ・自分のイメージを思い通りに表現できず、最後まで意欲が持続しない児童もいる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・体を使った経験の少ない児童に、手や体の感覚を働かせて作る単元を用意し、工夫して作る工作的なものや造形遊びを取り入れる。 ・のり、はさみ、ボンドなどの用具の正しい使い方を知り、自分の思いを表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と共同で使う道具や材料を大切に使うことを学ばせる。 ・見通しをもって使う道具や材料を選んだり、用意したりする。 ・楽しい発想が広がる題材やテーマを設定し、豊かな表現力を培わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや発想を主体的に表現できるように、友達との交流の場を設ける。 ・取り組みたいと思わせる題材にICT機器等を利用して広く提供する。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・材料や用具の活用、導入の工夫をし、作り出す喜びの経験を積み重ねる。 ・造形的なよさや美しさ、表したいことなどについて自分なりに考えたり深めたりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもたせる工夫として、めあての掲示、手順の視覚化などを行う。 ・用具の経験を増やし、材料などと組み合わせるよう表せるようにする。 ・造形的なよさや面白さ、表したいことなどを通して活動に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族へのプレゼントや生活で使えるものなど、意図や目的をもってつくることのできるものや、イメージが広がるテーマを設定する。 ・ペアやグループで感じたことを伝え合う場を設け、意欲につなげる。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・手順や注意点を確認させ、見通しをもたせる。 ・今まで経験したことを生かした工夫ができるよう、用具の正しい使い方を工夫させる。 ・自分の感覚や行為を通して、画面構成や色の組み合わせなどを工夫させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・材料の特徴を感じて構想できるよう、今までの経験を生かせる材料設定をする。 ・既存のもの仕組みから発想を広げたものを作ることができるようにもとなる画像や実物にふれさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材設定の工夫をし、表現の幅をもたせ、意欲の持続を図る。 ・学習内容に応じてペアやグループ、全体など、学習形態を工夫する。 ・より思いが広がるテーマを設定する。